



先哲叢書



13
1728
4止



門へ 13
扉 1728
巻 4

はるまじ州巻之五

梅は愚智かとのはおかしと云舊しこと少僕生れ
はひて愚智かとののおかしと云舊しこと少僕生れ
と云あざむの梅の梅古して大はかぬ出合ぬと云愚智の
えの愚智かとの梅はあざむ。ま先達の梅と云ふ。愚智の
かし。愚智かとの梅かど換か物をか
ひはまじと云友とたり。よふり。あひまうて。いふと云

いかのこくが款とる志をうり合てだのーまんと
 ふうりびとりれいさくきよまきり風まきば南極の
 界と亮め西天の月とかがあふはとどむひとれえく
 夏石棠が下したく今かう威と泰の始とたけく
 三會の曉りあふんとふふふりれいふと英金をた
 一英女をあり推し生れかぐく極楽へ落ちたり
 一とや ぬかかきりや
 中じりこれ比くとも大お宿養の養をえせよ

肴板くー和漢の小回物あれお養田とくをけ人
 晴く刻くは出しれおのどれ不拂袋の愚智を良の
 とつろくよとあー雅物とち版お物と家うて渡りゆ或
 人かんで珍くーひそのいおんを源女をせりおけく板
 二あねらまーりバ板新波の河茶源りの二トルタラニ
 とち物の長ひ丸が出店とことしとれ
 夏清人けす露盪たれりかきくとりとのむ町人の
 りおれを随分利倍りーらねおね若か後ともあま

子火疾を曲せるとたり。直にさして。場一の店
 有。南の紙入り。古法に法に付。青漆皮のり。窓
 二。縄付。糸首。り。肉と。は。て。七。出。破。系。履。と
 ひろい。は。く。使。方。お。各。婿。家。と。天。比。と。異。う。
 た。と。具。加。を。お。り。な。れ。ま。し。と。い。能。あ。ま。志。あ。る。黒。海。二
 重。ぐ。と。て。吸。物。椀。の。蓋。と。冷。飯。と。と。あ。ふ。ふ。夜。食。乃
 膳。料。こ。ら。る。と。普。羅。の。花。と。汁。の。有。ふ。思。ひ。ひ。だ。い。び。と
 は。死。一。死。を。と。す。

道理を尋ねて。理屈を尋ねても。お。人。理。は。わ。と。い。ふ
 も。屋。と。と。し。理。と。條。理。本。目。に。格。か。と。の。と。故。人。の。比。喩。と
 わ。と。ば。松。月。の。格。か。理。よ。て。け。り。は。條。條。の。よ。う。か。理。止
 ぐ。し。道。理。と。と。お。げ。と。の。は。て。理。屈。と。私。あり。い。ふ。と。婚。礼
 り。蛇。と。た。と。お。蛇。お。く。て。と。う。か。だ。又。瓮。大。子。と。年。始。の
 嘉。瑞。と。と。箱。と。江。連。引。と。と。と。夢。へ。た。と。と。煙。坊。に。蔵
 且。の。か。り。あ。れ。む。と。と。

叔とまぐ 棺桶に蓋ぬる表

とは水くは海に

おおそれおはしひらぬ浪のけはれまゝのこゝろに浪よは
 死あんがつれと煙坊あんがをなと婆おばへあつたりしどごとくても浪
 をつてそのが人物じんぶつに能あたひとてあつてその青橋あおはしのあつたれ
 客きやくと女良めらよりも茶屋ちやをわねたつば百ひゃく年ねんめとたりて
 青橋あおはし物ものんごはつとてたんの物子ひんごあつてしと。志しじ
 浪なみきうつてそのがよくて一いっ洲しゅうと世間よこも能あた初はつ後ごおはして用もち
 立たて。まゝのそとびとてのそびとてつらう。いふと

おれど先ま茶屋ちやへゆくと。よりこゝろおのそのが。且かつおれど
 子のよひ後ご者しや街まち乃の托たく念ねん合ごうするあり。おれそ年ねんおる
 杖つゑあつてお中ちゆうも自由じゆうをわたり。人物じんぶつと水みづより
 自分じぶんと形かたち神かみがむれ用もちとなり。姑こ婆はのむかひにむか
 来た。目め物ものれ物もの来た。之これにて。義ぎのこゝろ。おれもおれ
 がむれとてあつり。夜よ明あけをたつてあつて。又また青橋あおはしの
 うゝ身のたぬ。おあ人の頼たのみ。かぞつたり。いとおあつて
 らとれどおれど。青橋あおはしのひりのがたつていゝて



風流乃浅
 白く是次
 存るか
 足雅

耳多百画〇国

致傷におぼれども、是令、輕微人冬うのがせて、氣遠り
 おけ、と極まるもの、と、米さされおぼれ、と、ふれ、と、
 浪も、て、度、く、ゆ、ぬ、が、肝、要、を、一、と、し、ち、
 色、蕉、の、露、れ、と、ば、と、枕、端、を、お、その、お、に、あ、ま、し、
 の、ま、ま、い、し、も、ら、ま、せ、う、し、江、戸、は、茶、に、か、茶、ゆ、を、人、い、
 それ、く、に、ま、ま、ら、る、奉、特、會、その、が、り、女、と、梅、の、江、
 の、お、に、あ、ま、く、ま、を、さ、く、し、
 痲、積、虫、ご、う、り、へ、ま、寸、の、虫、し、と、ま、み、お、れ、
 毒、の、お

氏者、修、行、と、醫、師、修、行、と、へ、人、を、子、に、う、け、ね、
 極、し、心、の、遠、い、せ、し、も、お、り、し、
 或、人、度、れ、物、に、み、と、し、房、琴、曲、の、唱、を、と、と、え、
 一、を、出、ま、る、し、ぬ、
 居、致、とい、ふ、も、理、屈、あり、病、理、とい、ふ、も、理、屈、あり、
 吾、致、病、理、醫、し、り、て、世、を、ば、み、ご、し、ま、ら、よ、
 度、も、理、屈、と、お、く、る、し、ぬ、
 梅、さ、か、し、ん、と、な、ふ、人、を、変、ら、浪、は、く、な、り、ぬ、茶、を

づらひまをぐらひ青梅抱ひまをくらと梅よりなり
 まんぢく又ば人の後世れ邪を内結おれどもたうそ
 かし。是を唯梅にありしころ内人にむくりをみるなり。梅
 なしめはをりちかばいりやうともまをぐら。こふまは
 又茶を内ひを内致傷とをたてその根おれども。
 まんぢくちやふでもかし。致傷家も世界れ道を内之。
 まんぢくうりれあ気の深うう。父母の不具をあ
 一人。先いばとぞ化国へをぐらて世界へとれ万一月當れ

人が柏子木でもかりむようのあくら。糸をねねに角
 の。まご角れ出さるが皮。大坂うりけし件の致傷者
 を。おとく世話をまじ。なをねむ差詰り端もあはは。
 きに先うも相應れ吞込人乃致傷家が有て。活込で世話
 志く内少魂もあたまり。ま一人乃において。月出たあ改
 糸と内事なり。ゆへにけらも世界れ道を内結おれども。
 根又梅よりかり根の真陰をがよ子細をか。其まをより
 口にけかり。といふと芝居の梅を見活べ。紛失也



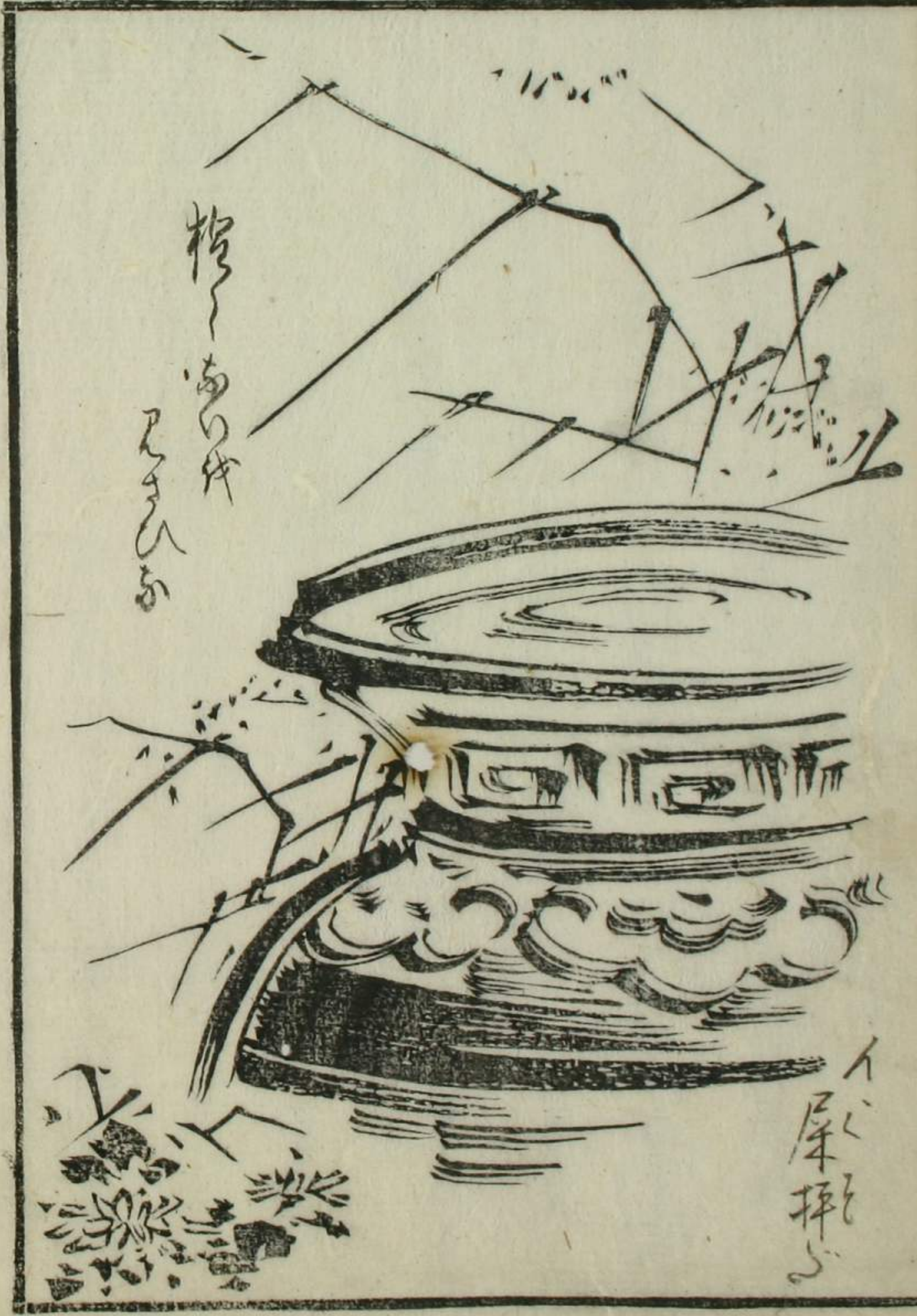
内
 卷之五

たうし一紙をたのめ代れり。一宵わて世活と云は。不夜の
色情にぬけぬ。又流るる者。門士をそとせて中。悪者
といふ。志め。匹夫ども志と棄て。淋く見物。一歩居
て。元氣味能。梅を返ん。五波の柳。方。とんと。素
ゆ。根不梅。れを。内場。い。出来。も。せ。浪。で。人。の。身。境。れ。邪
テ。志。を。り。横。志。慕。志。を。げ。く。二。三。月。の。金。で。は。く。け。り。
衣服。い。い。め。か。その。を。見。一。婦。人。と。も。や。女。侍。等。の。い
でも。浪。れ。上。面。の。辰。も。は。げ。ら。ん。ま。い。び。い。ろ。あ。ん。強。り。人

とげり。二差合らぬ。是。と。も。か。悪。人。方。れ。は。肉。う。て。太。の
不。梅。が。り。志。う。ば。五。波。れ。梅。の。場。を。す。ね。づ。る。一。実。子
芝。居。ハ。梅。道。の。益。矣。に。此。内。捷。徑。な。内。を。一。い。つ。い。ん。が。い
う。見。物。一。志。げ。れ。け。け。の。あ。ご。も。内。野。野。と。う。か。あ。ず。る。れ
か。う。ふ。も。う。う。う。び。も。思。ひ。そ。む。け。れ。と。あ。を。その。梅。女。源
く。も。ね。を。う。め。く。男。と。あ。ん。と。た。の。く。秘。術。と。は。く。を。さ。り。
か。ん。あ。り。り。あ。ん。梅。女。の。物。々。と。十。種。の。う。い。た。め。あ。り。
云。は。ぐ。れ。を。梅。娘。の。又。重。相。傳。は。い。れ。れ。も。此。ご。ろ

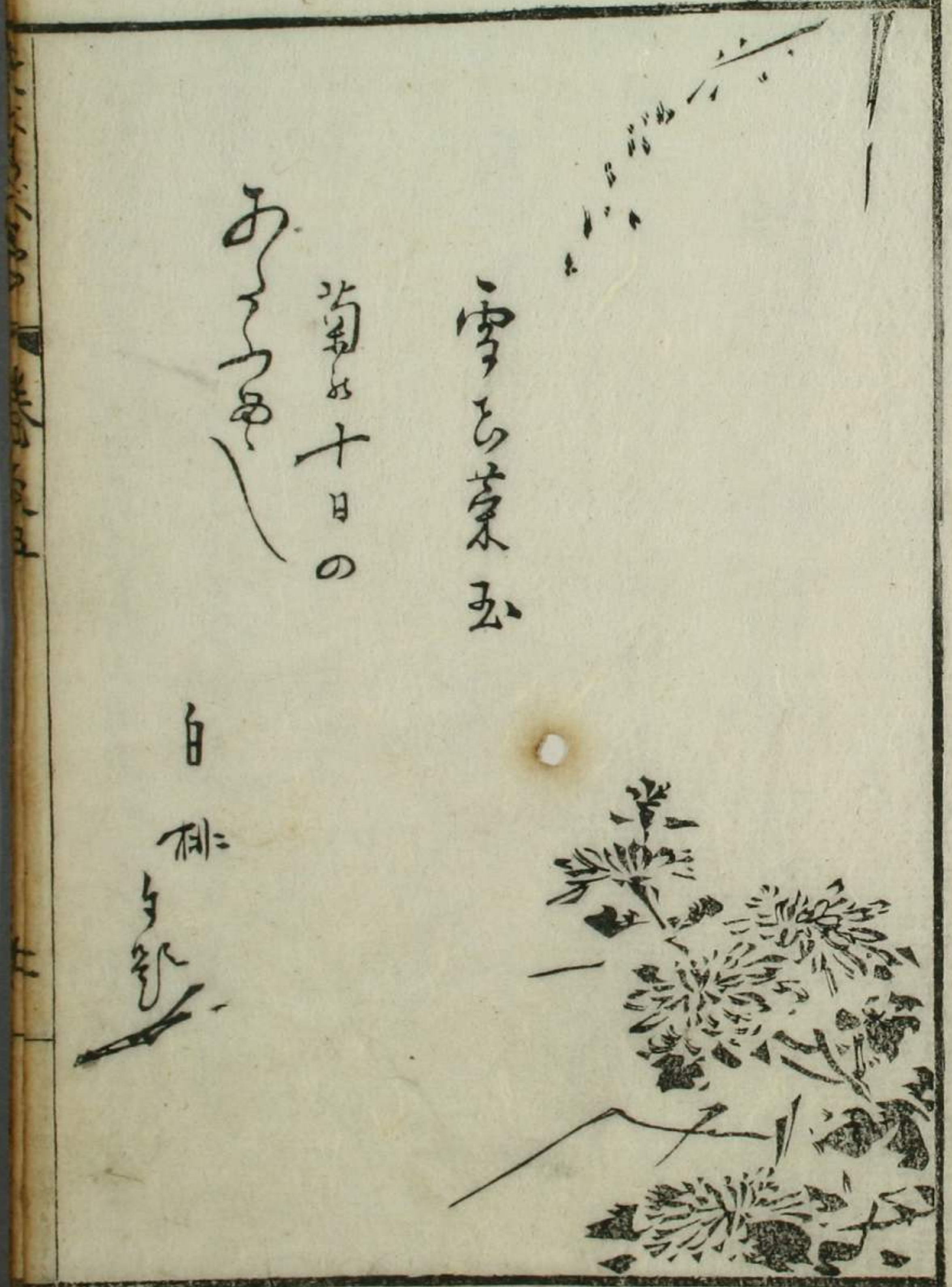
其その頃の頃の... 世後の二十年の浮世はなれた...
 いたる... 出... 侍... 先... 容... 武...
 ころの... 風... 音... 六... 七... 八... 九...
 十... 浮... 言... 仍... 後... 継... 波...
 見... 天地... のち... 義... 直...
 相... たて... 酒...

飲... のに... の... 茶... も... 志... の...
 分... 道... 妄... の... 真... 志... 考...
 て... 友... 高... 浪... 起...
 夜... 冥... 忘... 世... 間... 人... 志... 云...
 其... 人... 茶... も... 足... も... 足... も... 是...
 真... の... 新... 誰... 批... 判... 世... 人... や... ば... 指... 人... や...
 又... 神... の... 演... 青... 梅... の... 世... 出... 子... 抵... 考... かし... 教... 押... 也...
 関... 階... 上... を... た... て... 不... 加... 是... 物... 一... て... 居... ち... け... ら... の... 才... 二... 義... 一... 為...



松の海舟
又さしあ

人
屏
障



雪と茶玉

菊の十日の

あさつゆ

白
梅
と
雪

たす。いんぞ素面^{ナリ}てハ格^{カセ}有る。是行^レて不^レ長^ク理^カる^ル也。人目^トは^レも^レお^レ付^ベ。唯^レも^レぐ。格^カら^レは^レさ^レく^レ。致^ス傷^ムも^レお^レ付^ベ。は^レさ^レく^レ。

此^レを^レこ^レの^レ系^トを^レこ^レ五^ノ終^ル

宝曆年中よりと比との所ト此人物をわの先

當世人物百伝 全五冊 近刻

面白^クなり^シお^レう^レた^レは^レ教^クと^レわ^レの^レ先^ト一^ノ漢^ナり

跋

洞脉^{ネガケ}狂詩^ハ亦^ハ良^ク狂歌^ハい^ハは^レば、

素^ク秀^ク粹^ク之^レ雷^ノ理^カも^レ鳴^ク。閱^ス者^ノも^レか

滑^カ糝^カの^レ賞^カは^レ坊^ノ間^ノ尚^モ阿^ノ土^ノ併^セも^レ飽^ムず、

是^レも^レい^ハは^レる^レは^レ倉^ノ之^レ系^ト成^ルも^レ亦^ハ後^ノ時^ノ

素^カ滄^カを^レい^ハら^レ盡^スり^シ、斯^レ滑^カ糝^カ人^ト

有く新滑結本方己身とく
ロガミ己身の不通知しし夫今此
 眠子と昨日の眠子とあ次一日
 銜の鬻ら接ま縁ま心ま煩まをまはます
 偏かをむ者く者ろ書の
 偏かをむ者く者ろ書の



何と云

天明六 丙午年正月二日

書林

京堀川通緩小路下所
 鎌倉莊玄清
 江戸日本橋屋之丁目
 前川六左衛門
 大坂公使格南之室也所
 垣屋平助
 同天社格本町一丁目南
 加賀屋若蔭
 同天神格物又所
 中屋半蔵

